

令和4年度授業改善推進プランの評価

感染症対策のため、学校での調理実習を3年間行うことができていなかった。家庭での取り組みになってしまい習得に個人差が生まれている点が課題。裁縫に関しては、技術面は概ね習得させることができた。SDGsと関連させて指導することができた。(環境面)

実態

今年度は調理実習も行えるようになり、意欲的に学習に取り組んでいる。裁縫では、お互いに声を掛け合ったり教え合ったりしながら、協力して活動することができる。しかし、児童の経験や知識、技能などに個人差があり、家庭科で学んだことを実際の生活の中で生かしてきれていない。また、実習を行う際に、自分で計画を立てることや見通しをもって学習することが苦手な児童も多い。

指導上の課題

- ①計画、実践、評価、表現を通して課題を解決する力を育成すること。
- ②日常生活に必要な基礎的な知識の理解と、それらに係る技能の習得ができるようにすること。また、習得した技術を日常生活に生かせるようにすること。
- ③6年生に関しては、昨年度までできていなかった調理実習の内容や技能面についても今年度可能な限り補うこと。

令和5年度の具体的授業改善

高学年

・ICTの活用

ICTを効果的に活用し、基礎的な知識・技能を身に付けさせる。(裁縫や調理の手順、方法の確認などで活用。)その上で、生活を見つめ、できることを増やしていくために、家庭学習の課題も出す。(作った料理をタブレットで撮影)計画を立て、実行するだけでなく、実行したことを振り返ることでよりよい方法を工夫し、家族に協力し続けようとする態度を養う。

・家庭との連携

家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てるために、学校での学習内容・実習内容等を学年だよりや保護者会を通して家庭にこまめに連絡し、家庭での協力を依頼する。

・問題解決の実践・活用

自分の生活を見直すことを通して、問題を見出し、課題を設定する。実践に向けて具体的に計画を立て、適切な解決方法を選べるようにし、実践させていく。また、単元を日常生活や学校生活などに関連させて取り扱い、学習したことを実際に活用できるようにする。

・SDGs

SDGsへの参画の一環として、学習指導要領の内容C「消費生活・環境」(2)は総合「今、自分たちにできること」と関連付けて学習を進める。その中で、環境に負荷の少ない生活の仕方を考えさせる。また、「快適な住まい方」の授業において、身近な環境にできるだけダメージを与えないようにするための方法に気付かせ、自分たちに今できることを、学校生活でも家庭生活でも実践させていく。